

あおぞら

発行:愛知県被災者支援センター
住所:名古屋市東区泉 1-13-34
名建協 2階
TEL:052-971-2030
FAX:052-971-2050
開館:月曜～金曜 10時～17時



あおぞらカフェ「クラフト細工をしましょう」(11/3祝)で参加者は思いおまいの作品を作りました。

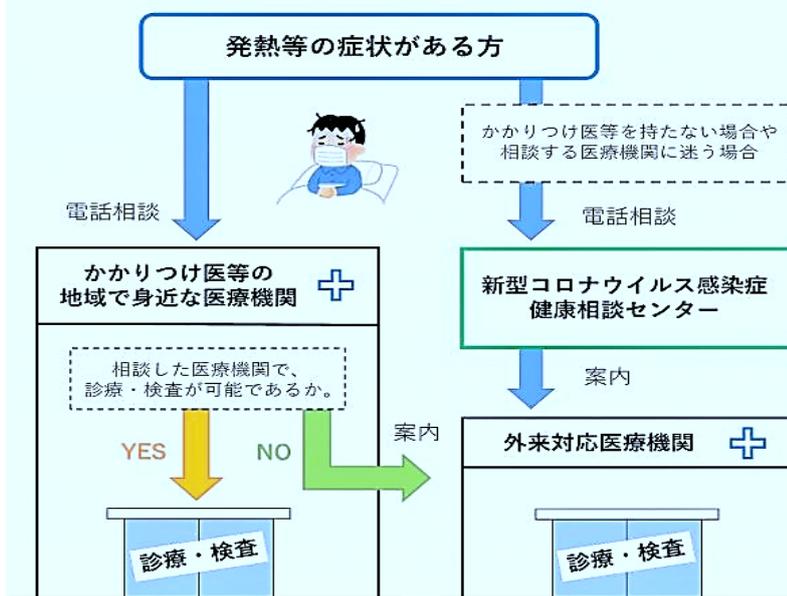


出来あがったコースターとヒマワリ



「あおぞらカフェ」と「ふれあいフェスティバル 2023」(東京)のオンライン交流

発熱患者等の外来診療フロー図 (2023年5月～)



もくじ

- P1. 表紙写真:交流会
- P2～4.各地交流会 (①岩手県宮城県気軽にお茶飲み交流会、②あおぞらカフェ「クラフト細工」+「ふれあいフェスティバル 2023」オンライン交流、③いわき交流相談会)
- P5. 寄稿/ユースの避難者支援他
- P6. 寄稿/旅紀行「触倉島」
- P7. おすすめの一冊①、②
- P8. イベント情報、レシピ、編集後記

岩手県・宮城県 気軽にお茶飲み交流会 10/1(日) (東海市しあわせ村 保健福祉センター)

- 交流会の主催は、気軽にお茶飲み交流会実行委員会（避難者の方、東海市社協、コープあいち・「絆カフェ」）で、6世帯7名の参加者がありました。体調不良や他の予定で出席できない常連参加者も数名あり、不参加の人がどうしているか心配する声もありました。
- 全体交流会は、いつものように避難当事者で実行委員の S さんが司会進行、それぞれが自己紹介と近況報告を行い、また元学生ボランティアによるオーボエ演奏では、「花は咲く」を全員で歌って楽しみました。調理交流で冬瓜の汁物を作り、具沢山の温かい汁ものが好評でした。
- 自由時間には、参加者同士がおしゃべりしたり、保健師や臨床心理士などにも入ってもらい、相談対応や状況把握をしていただきました。
- 当日はあいにくの雨天で、聚楽園公園の散策はなく、室内でハーブソルトづくりやクラフトバンドの小物づくりを実施しました。それぞれ和気あいあいとした雰囲気、馴染みの避難者仲間同士で交友を深めていました。最後に参加者全員が笑いヨガで体と心をほぐし楽しく終了しました。「また次回にね」という言葉で会場を後にしました。

久しぶりに皆様の顔を拝見し、うれしく思いました。年を取ると出かける事がおっくうになり、つい家の中だけになってしまいます。こうして出かけると、また新たな気分になり、元気が出てまいります。次の機会も皆様にお会い出来るよう元気にがんばって、次回を楽しみにします(Tさんのアンケートより)。



「クラフト細工」



「ハーブソルト」—マジックソルトだね!!

楽しく参加させていただきました。雨により公園散策は出来ませんでしたが、室内でのハーブソルトや小物づくりなど、皆さんが和やかにしているとても良い時間だと思いました。オーボエもとても心にしみました。昼食もおいしくいただきました。これから、笑いヨガでリフレッシュして終わりたいと思います。ありがとうございました(Sさんのアンケートより)。



恒例の締めくくりの「笑いヨガ」で、全員で楽しく笑って、終了しました。

あおぞらカフェ「クラフト細工をしましょう」&「ふれあいフェスティバル2023 (@東京)」

11月3日(祝日 10時~14時)に、あおぞらカフェ「クラフト細工をしましょう」を東京の「ふれあいフェスティバル2023」とオンラインで結んで、通常の半日から午後にあたる企画で開催しました。カラフルなクラフトバンドを使って、好みの小物細工に取り掛かりました。ヒマワリの花や「うろこ編み」という編み方でブレスレットを作る人は、始まりの部分を教えてもらった後は、それぞれが集中して取り組み、仕上げていきました。

昼前には、東京、岡山、愛知とオンラインで結び、それぞれの団体の自己紹介や活動の紹介をしました。東京からは「落語」や楽曲演奏、フラダンスなどが画面から流れてきました。こちらでの交流会でもおなじみの「笑いヨガ」に、「同じだね」と手を動かしながら見ていました。

作品の作り方を学んで、完成品を持ち帰り、文化の日の一日を楽しみました。



好みの作品を各自で作成



ブレスレット完成



昼食は、各自で作るオープンサンドとコーンスープ。「おいしかった!」と大好評



差し入れのお芋のデザート



集中力!オンラインの落語は耳に入らず!!

参加者アンケートより：

- ・自分のペースでできて、良かったです。もう少し作りたいので、つづきをお願いします。
- ・クラフトバンドのブレスレット作り、楽しい時間をありがとうございます。
- ・オープンサンド、おいしくいただき、クラフトもヒマワリとブレスレットができて、また参加したい。
- ・今日はあおぞらカフェに参加し、とても満足です。面白かったです。ありがとうございました。
- ・交流会に参加し、手作りのコースターとブレスレット、両方ともとても良かったです。ありがとう。
- ・皆さん、とても集中して楽しんでいました。また機会を作ってやりたいですね(ボランティア)。

いわき交流相談会@いわき市 11/11(土)~12(日)

11月11日~12日にいわき交流会(福島県県外避難者帰還・生活再建支援補助金事業 主催:レスキューストックヤード(ふくしま支援室))が開催されました。参加者は愛知、岐阜、三重県に避難している8世帯15名(大人12名、子ども3名)の皆さん。いわき市へと向かう新幹線、常磐線の車内でも「久しぶり」「子どもさん大きくなったね」「初めましてですね。避難元はどちら?」楽しそうな声と笑顔が交わされていました。

1日目のプログラムは、『ふくしまオーガニックコットンプロジェクト』(原発事故後に野菜などの栽培が出来

なくなった畑を利用して、放射能の影響を受けにくい綿花栽培、タオル等の商品化に取り



組んでいる団体)の視察。バスの車中では、「いわき市は14の市町村が合併して、だだっ広い市になったんだよね。面積が日本一だったこともある」「私は平(たいら)町出身」「私は泉町」「僕は四ツ倉」「私は小名浜だから、秋冬になると風が強かった」「内陸の方でも、山の方から吹き下ろす風は辛かったよ」故郷話が次々飛び出し、30分の移動時間はあっという間。晴天に恵まれたこの日、コットンプロジェクトの皆さんが丹精込めて栽培した綿花畑で、ふんわりと実った綿の実を摘み取り、手紡ぎで糸を撚る作業まで体験させていただきました。



2日目はいわき産業創造館で、前半は『いわき放射能市民測定室たらちね』事務局長の木村さんの講演。ご自身も東日本大震災当時は子育て中の母親として、「原発事故は起きた時だけが被災ではなく、問題が起き続け、被災は連続する。それに



向き合うためには、科学的な視点で正確な情報をつかむことが必要」と考えて活動を始めたと語る木村さんは、後半のグループディスカッションにも参加し、交流会参加者の皆さんと活発に意見交換をしてくださいました。

このディスカッションには、愛知県で6年間を過ごした後、7年前にいわき市に帰還された方や福島県避難者支援課担当者も加わり、避難者の方たちの声に耳を傾け、福島での生活について話してくださいました。個別相談コーナーでは、福島県避難者支援課[制度関連]、いわき市社協が運営する生活・就労支援センター[就労関連]、ADRセンター[ADR、東電第5次追補関連]の担当者が対応。



参加される一人ひとりの方が、帰還や生活再建について考え、少しでも明るい見通しを持てるように応援したいと企画したプログラムは、帰りの常磐線の中でも「いい体験ができたね。明日からも頑張れそうだ」「またこういう機会があったら参加したいね」という声を聴くことが出来て、支援者側も元気を頂いた2日間でした。(菊池邦子)

寄稿//ユースの目から見た東日本大震災被災者支援活動

学生ボランティア 伊藤かな(日本福祉大学4年生)



こんにちは。初めまして。日本福祉大学四年生の伊藤かなと申します。出身地は、東京都国分寺市で、在学中は大学の近くで一人暮らしをしています。

東北出身ではないのですが、被災者支援活動に興味関心があり、この一年間、愛知県にお住まいの多くの東日本大震災における避難者さんと関わらせていただきました。たくさん思うことはありますが、今回は、中でも印象に残っている「岩手県・宮城県 気軽にお茶飲み交流会」、「パッチワーク教室」に参加して、感じたことや今までの思いを記させていただきます。

一つ目に、「気軽にお茶飲み交流会」についてです。年に二回、岩手・宮城出身の避難者さんと顔を合わせ、地震津波の被害を受けて愛知県に避難してきたこと、愛知での暮らし、最近の様子をお聞きします。避難者さん同士も、何度か顔を合わせているうちに顔なじみになって、和気あいあいとした雰囲気が漂っていました。時には私の進路の悩みを聞いてくださったり、とても元気が出ます。オーボエの演奏やアロマの癒し、キーホルダー作りのワークショップ、大仏のある公園を一緒に散策、笑いヨガを楽しみ、お昼ご飯にはお弁当や手作りの煮汁をいただきます。

震災の体験は人それぞれで、同じものはないということを知り、お一人お一人の今後について傾聴することが、とても重要なことであると感

じた。被災経験があるないに関わらず、様々な市民の方に知っていただきたいと思いました。

二つ目に、「パッチワーク教室」についてです。避難者さんでパッチワークの先生とハンドメイドの好きな方が集って、少人数で好きなものを作る会です。私は、何かを手作りすることが好きで、ブローチや毛糸でピアスを作ったり、ビーズで指輪を作ることに挑戦してみました。先生や避難者さんが快く教えてくださり、お話することがとても楽しいです。先生は、「ここに来るのをいつも楽しみにしているの」と仰っていたことがあり、私も同じ気持ちで嬉しくなりました。また、ある避難者さんから「被災当時の話はあまりしたくない」と伺ったことがありましたが、その方のニーズを察することがとても重要なことだ、と知ることができました。

大学卒業後は関東へ移り、社会人になります。来年の4月から、社会福祉法人の高齢者施設で介護職に就く予定です。その後、高齢者の生活を支える生活相談員になりたいという夢があります。災害関係の仕事ではありませんが、これまでの経験は人生の糧となりました。今後、様々な価値観や境遇を持つ人々との出会いが増えます。高齢者や周りの大人から、いろいろ吸収して学べることに期待しています。社会に貢献していきたいです。

ウクライナ避難者の合唱 (あいち・なごやウクライナ避難者支援ネットワーク事務局 レスキューストックヤード)



11/12(日)、名古屋市天白区の「てんぱく文化祭」で、ウクライナ避難者がウクライナの民謡や日本の歌(「ふるさと」、「上を向いて歩こう」)を歌いました。日頃はあまり表舞台に出ない人が集まって合唱グループを結成、何度も練習を重ねました。日本人もネットワークスタッフ等が参加。皆で一緒に作り上げていくことの大切さを感じさせていただきました。

寄稿//旅紀行「地図にない島 舳倉島(へぐらじま)」

伊藤廣昭(避難元:南相馬市小高区 名古屋市南区在住)

先日何気なく地図帳を見ていたら、無い、無い、無い、島がない？舳倉島が載っていないのだ。

昔、佐渡島の小木から能登半島の穴水までフェリー一船が通っていた。佐渡汽船だったのだろうか？佐渡で三日ほど過ごした後、能登半島の輪島を目指して来たのだが、前日泊った宿で知り合いになった人から薦められ、輪島市の50 kmほど北にある舳倉島を訪ねることにした。舳倉島は海女の島らしく、アワビやサザエ、ワカメなどを採り生計を立てる人達が、夏場の短い期間移り住む島である。彼らが冬場を過ごす本宅は輪島市内にある。

島の大きさは、長い所で1.5 kmほど、狭い所は50mくらいしかない火山活



動で出来た島である。乗ってきた船が帰りの準備を整えるまでの時間で島巡りが完了するほどの小さな島であったが、なぜかそこに一泊することを考えた。

人と一緒に船が運んできた様々な物資を運ぶのは、フロントガラスも扉もなく運転席の底板のほとんどが抜け落ちた軽トラックで、エンジンを吹かすと底から火花が飛び散る、とても車などとは呼べないほどの代物であった。それでもナンバーがあり、「舳倉島 い-〇」であった。狭い島の南側の生活エリアの堤防沿いを行き来し、生活物資を家々に運搬することを目的としたものであった。

島には明確に宿と確認出来るような看板は見えず、島の人に聞いた民宿に泊った。当然ながら観光客を相手にするような商店などはどこにもない。宿の夕食が終って、TVもない部屋に戻ると、手持無沙汰から酒でもと思い、宿の親父に聞くと、数軒先の家を教えられた。そこは全く普通の家であ

る。階段下の引き戸の奥から引っ張り出された一升瓶を宿に持ち帰り、呑んだ。本当に何もない島なのである。翌日には帰ろうと思っていたが、朝になり、宿の親父が私の部屋の脇の物干し台から海の様子を眺め、「今日は船が来ないぞ」と言った。予想外の事態になった。二泊目が確定したのである。本当に何もない島なのだ。宿で出された昼飯のうどんを食べ、島の北側の黒い溶岩の磯に向かうと、海女さんが磯採りをしていた。しばらく眺めているとタバコをくれという。火を点けて渡すと、それではないという。それではと、火のついてないタバコを渡すと、それで水中メガネの内側を拭き始めた。曇り止めにするのであった。知らなかった。その場を離れぶらぶらと眺め歩くと、狭いながらも島には、小学校、消防署、警察署、診療所などの必要最低限の施設が揃っていた。全て分校・分所・分署である。

TVなどの情報からだろうか、今では、渡り島の中継地点としてつとに知られるようになり、訪れる人が増えている様である。釣り人にも、あここがれの島であるようだ。更には、輪島から舳倉島に至る途中の海上には、海賊が宝物を隠したという無人の「七ツ島」が見える。

何もない島、である舳倉島を一度訪れてみるのはいかがだろうか？ただし、海に三角波が立つようになれば、それが凪るまで船は来ず、帰れなくなるがあることを付け加えて置く。舳倉島は、厳しく、優しい自然そのものを見せる日本海に浮かぶ離島なのである。



最期に、地図は道路地図であった。

私のおすすめの一冊

①『やぎのしずか(シリーズ1)』(絵本) 田島征三作・画 (文化出版局)

作者は1969年、東京都西多摩郡日の出町でヤギや鶏を飼い、畑を耕しながら絵本の創作活動をしました。

この頃は、こういう生き方をする若者が多い時代でした。かつて私にもこういう友人がいて、お手伝いに行っていたことがあります。その時、やぎのお乳を飲ませてもらいました。ところがその味が生臭かったのです。友人が言うには、「葛(くず)を食べさせると、マメ科の草なので美味しいお乳になるよ」と。しばらくして招待してもらい、今度のお乳は美味しく、「葛を沢山食べさせたからね」という説明がありました。そんなに味が変わるものなのだと、実に感心したものです。

一年経って、しずかに赤ちゃんが生まれ、やがて草を食べるようになったら、その赤ちゃんは他所へもらわれて行きました。父さんが「今夜からしずかのおっばいが飲めるぞ」とはしゃいだのは、

②『ちいさいおうち』(絵本)

バージニア・リー・バートン文・絵 石井桃子訳 (岩波書店)

(編集委員:富田祥子)

この作家は、アメリカのボストンの小さな村に住み、画家、デザイナー、絵本作家として活躍した人です。1964年に日本にも来ているようです。

「むかしむかし ずっと いなかの しずかなところに ちいさいおうちがありました」から始まり、まるで子どもだったころ、聞いたような懐かしい気持ちになるのが不思議です。景色も、私たちが眺めていたような景色だったりします。そんな小さいおうちの前の、ひなげしの花が咲く丘を切り崩し、曲がりくねった道は平たい大きな道路に変身します。大きくなった道路にはひっきりなしに大きな車が通り、夜になっても静かにならず、明るくて星も見えなくなりました。ちいさいおうちは高いビルに囲まれ、ちいさいおうちに住

(編集委員:瀧川裕康)

おもしろい表現でした。乳しぼりがうまくなって、ミルクだけでなく、チーズ、ヨーグルト、アイスキャンデーと食卓はにぎやかになりました。それは何とも楽しい一ページ。

ところがある日、つないであった縄が切れて、しずかはお隣のおじいさんの作ったキャベツ、しいたけ、トマトをたっぷり食べてしまいました。おわびに、お母さんが作ったしずかのミルクをどっさり入れて木いちごのジャムをあんにした、できたばかりのまるいクッキーはおじいさんにあげたので、女の子は一つも食べられませんでした。

この本は子育ての時に、子どもによく読んでやった本です。



む人はいなくなりました。夜も昼も人々は忙しく動き回り、あたりの空気はほこりと煙によごれ、季節さえ分からなくなってしまうのです。

この絵本に描かれている事は、アメリカだけではなく、世界中どこでも起こる事です。我が家の近くでも、皆さんの家の近くでもきっと起きているし、これからも起きる事でしょう。

小さい子ども向けの絵本で、すべてひらがなで書かれており、ほんの数分で読み終える絵本ですが、大人が読んでも読み応えがあって、考えさせられる内容です。80年以上前に、アメリカの作家によって描かれた絵本ですが、人間は今も同じ事を繰り返しており、むかしむかしのお話ではない事に気付かされる絵本です。

【イベント情報】 *開催・内容等が変更になることがあります。詳しくはチラシでご確認ください。

開催日	イベント名	内容（主催など）	会場
12/3(日) 10:00～14:00	濱田農園農作業体験 交流会	さつまいも掘り他収穫作業	東浦町緒川の畑
12/17(日) 10:00～14:00	冬のあったか芋煮会	3団体共催(愛知県被災者支援センター・被災者支援ボランティアセンターなごや・キリスト教社会館)で楽しくにぎやかに。	発達センターあつた (名古屋市 名鉄神宮前 10分、地下鉄名城線熱田 神宮伝馬町2番出口5分)
12/23(土) 午前 11 時と 午後 2 時 30 分	(劇団飛行船)マスク プレイミュージカル 観劇&ミニ交流会	日本特殊陶業(Niterra)ファミリーミュージカル「赤ずきん／3びきのこぶた」招待観劇とミニ交流会	日本特殊陶業市民会館フ ォレストホール (名古屋市 JR/名鉄・ 金山駅 徒歩すぐ)

<さっちゃんのレシピ> マセドアン・サラダ*

【材料】(2～3人分)

かぼちゃ 200g、人参 7～8cm、きゅうり 1/2本、
りんご 1/2個、玉ねぎ小 1/2個、レタス適宜、
ミニトマト 2個

【ドレッシング】

マヨネーズ大さじ 4、レモン果汁小さじ 1、しよ
う油小さじ 1

【作り方】

- ① かぼちゃ、人参は 1.5 cm角に切りにして、塩
少々入れた湯で茹でる
- ② きゅうり、りんごは 1 cm角に切る
- ③ 玉ねぎは繊維にそって細く切り、電子レンジ
で 1 分程加熱する



- ④ ①～③の材料をドレッシングで和え、レタス
を敷いたお皿に盛り、半分に切ったミニトマ
トを飾る

*「マセドアン」とは、(材料の)角切りという意味。
かぼちゃの代わりに、ジャガイモやさつまいもなど
に変えても美味しい。

【編集後記】

- どこからか金木犀の香りが漂うようになりました。やっぱり秋です。日中は気温が高い日が続いていま
すが、秋祭りのお神輿を担ぐ「ワッショイ」という声が聞こえる時期になりました。暑い暑いと言っ
ている内にコスモスも終わったようで見に行けず、近所では朝顔と金木犀が同時に咲いています (T.S)
- ジャニーズの 性の加害は 根が深い 簡単でない その解決は/ エアコンの 暖房点けて 叱られ
た それはそうだが うーんでも寒い/ 王座戦 藤井聡太が 勝利する 遂に 8冠 全部独占 (T.H)
- ミニマリスト? 最小限しか持たない生活?! 先ず今持っている物をどう整理するか。何を捨て、何を持っ
たのか。70年以上の生活で、たまりにたまったものを何とかしなくてはならない。紙の中に詰まってい
る情報を取捨選択するところから。今やデータで保存できるので、紙の資料は不要なのだが!? (T.K)